

## 志布志産ハモの地産地消の取組（食の観光拠点整備）

大隅地域振興局林務水産課水産係

### 【背景・目的】

志布志漁協は鹿児島県でも有数のハモ水揚量を誇り、平成24年度のハモ水揚量は31.5トンであった。また、志布志漁協ではハモの地産地消を推進するため、これまで地元飲食店業者有志6店舗による「ハモ宣伝隊」と協力し、平成19年度より「はも祭り」を実施したり、各種イベントへの参加、各種マスメディアを活用したPR活動等さまざまな取組を行ってきた。その結果、志布志産ハモの認知度は徐々に上がってきたところである。

しかしながら、PR活動の中心となっていたハモ宣伝隊がメンバー脱退により解散し、平成25年度のはも祭りは中止され、今後のハモのPR活動が実施困難となった。

そこで、来年度以降のはも祭りの開催や今後のハモのPR活動強化に向け、平成25年度は「ハモ宣伝隊」を発展させた組織の結成・活動強化を目指すべく、志布志市内の飲食店業関係者と協力してハモ料理イベントを実施した。

### 【普及の内容・特徴】

#### 1 ハモのPR活動組織の結成

「ハモ宣伝隊」の後継組織を結成するため、志布志漁協、志布志市、大隅地域振興局、志布志市商工会、志布志市観光特産品協会と協議を進め、商工会・観光特産品協会の会員である市内飲食店に協力を呼びかけ、飲食店19店舗で「ハモ推進協力会」を結成した。

#### 2 ハモ料理イベントの実施

平成25年度は中止となってしまった「ハモ祭り」の代替イベントを開催すべく、志布志漁協とハモ推進協力会で協議し、かごしまのさかな販売・消費拡大事業（地域特産魚販売活動支援）を活用してハモ料理コンテストをオープニングイベントとしたハモ料理フェア「ハモ三昧祭り」の開催を計画した（図1、2）。

まずは、7月10日に志布志大黒リゾートホテルにて「ハモ料理コンテスト」を開催（図3）し、ハモ推進協力会の会員16店舗によるハモ創作料理が振る舞われた。

コンテストでは、井や和華の「ハモ！あ！ナイスデー！」がグランプリとなった。

また、このハモ料理コンテストをオープニングイベントに、9月末までハモ推進協力会全19店舗にてハモ創作料理が提供されるハモ三昧祭りが開催された。

### 【成果・活用】

志布志市商工会・志布志市観光特産品協会の協力のもと、「ハモ宣伝隊」（6店舗）よりも規模の大きな「ハモ推進協力会」（19店舗）を結成することができた。

また、7月10日から9月30日まで実施された「ハモ三昧祭り」の期間中、ハモ推進協力会による各テレビ局・新聞等への祭りの広報活動が精力的に行われ、ハモのPR活動の活性化につながり、平成26年度以降もハモ三昧祭りが開催されることとなった。

これにより、志布志漁協加工事業のハモ加工販売高は平成20年度以降で過去最低となった平成24年度と比較し、販売数量は約2倍、販売金額は1.7倍に増加した（図4）。

また、ハモの平均単価も平成20年度の370円/kgをピークに平成23年度は298円/kgまで下降したが、平成25年度は335円/kgまで回復した（図5）。

### 【その他】

ハモ推進協力会の結成により、地元飲食店業関係者ではハモ料理を盛り上げる気運が高まり、平成26年2月22・23日にかごしま県民交流センターで開催されたShow-1グルメグランプリでは志布志中央商店街が「天然ハモ天・ウニ飯入り志布志湾三昧丼」を出品し、グランプリを獲得した。



図1 ハモ三味祭りチラシ（表面）



図2 ハモ三味祭りチラシ（裏面）



図3 ハモ料理コンテスト

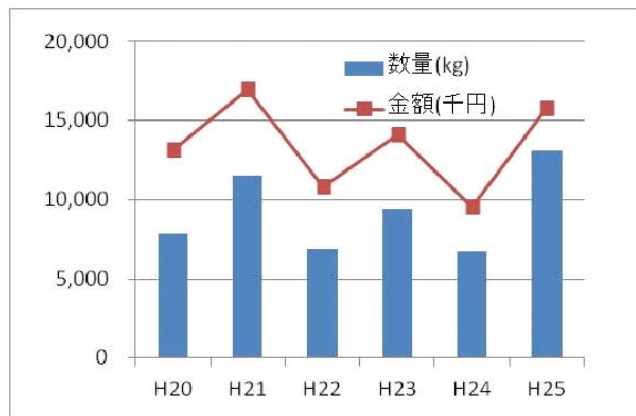


図4 志布志漁協加工事業のハモ加工販売高

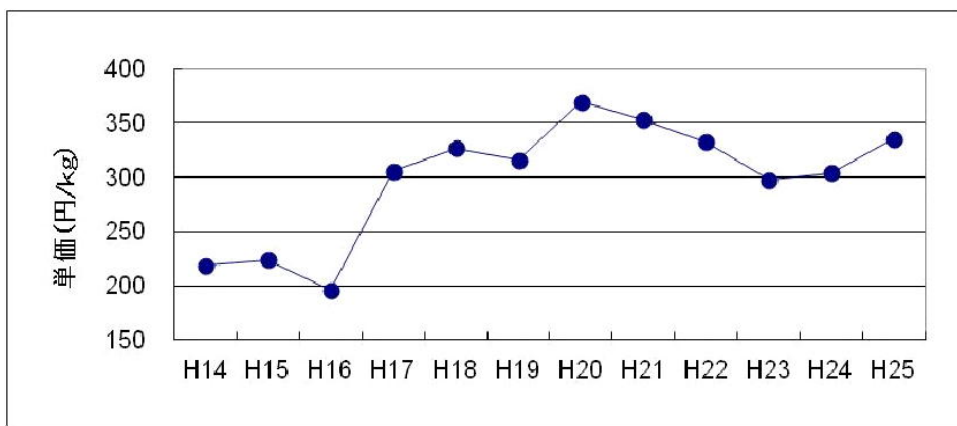


図5 志布志漁協におけるハモ単価の推移